

令和元年度自己評価シート(中間評価)

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全日制	本校
----	----	-----	--------------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。							
主体的な学び、協働的な学び、深い学びをすすめる。		(1) 生徒に付けたい力を念頭に置いた単元指導計画・年間授業計画の検証を行い、改善に取り組む。 (2) ICTを積極的に活用してパフォーマンス課題を取り入れた授業を実施し、生徒の表現力や思考力・判断力を育成する。 (3) 資質・能力の評価の在り方について研究し、議論を深める。		B	・パフォーマンス課題の取り入れ方とその活用及び評価に関する研修を行い、6月の授業観察強化月間では、パフォーマンス課題を授業に取り入れることを努力目標として授業改善に取り組んだ。	教務部	
家庭学習習慣を身に付けさせる。		(1) 基礎基本定着のための課題を計画的に与え、家庭学習の記録をつけていくことで意識を高める。教員間においても各教科の課題内容を共有し、指導の徹底を図る。 (2) 集会等の機会を利用して、授業や家庭学習を大切にする意義を講話に盛り込み、学習に対する意識を高める。		B	・家庭学習の記録はとっているが、試験前に比べ平常時が少なく、家庭学習の大切さを伝えきれていない。	教務部	
進路目標実現に向けた学力を伸長させる		(1) 国公立ガイダンスや個別面談を実施し、個に応じた情報提供や学習アドバイス等によるきめ細やかな指導を行う。 (2) 模擬試験の前の事前指導や事後の振り返り学習において、デジタルサービスの活用を促進し徹底させる。		A	・国公立ガイダンスや個別面談は計画通り実施し、情報提供や意識啓発を働きかけている。 ・LHRの時間にデジタルサービスを活用して模擬試験事前指導を行い、目標点や志望校の設定、志望校研究を実施した。	進路指導部	
キャリア実現のための支援体制を確立する		(1) 学年会や担任と連携して資料提携を行い、進路実現に向けて生徒や保護者の意識改革を行う。 (2) 外部講師や就職支援専門員と連携し、面接指導や就職支援活動を行う。 (3) スタディサポート分析会やデジタルサービス活用講座などを実施し、生徒の状況理解のための支援をする。		A	・進路だよりの配付や各学年別保護者対象進路説明会を校内または校外で実施した。 ・外部講師を招聘した志望理由書講座や就職、進学別に面接指導講座を実施した。 ・生徒、教員対象別の分析会や3学年進路検討会議等を通して、指導方法について検討した。	進路指導部	
挑戦を続ける受験体制を確立する		(1) 就職希望者に対しては、マナー講習や面接指導ならびに志望理由書の作成指導を組織的に実施する。 (2) 進路希望別ガイダンスや面接により、各自の目標をあきらめさせない指導を継続して行う。		A	・校内外ガイダンスを通して、就職の心構えや就職の流れ、履歴書作成、面接指導等を実施した。 ・進学(国公立・私立)、就職などの進路別ガイダンスと小論文、面接、センター試験ガイダンスなど入試形式別ガイダンスを実施し、意識啓発をしている。	進路指導部	

【評価結果の分析】

- ・本校の「学びの変革～主体的・協働的で深い学びを追求する授業づくり～」は、計画通り取組を進めている。特に8月の研修において、パフォーマンス課題の評価に関する講義と、教科ごとに評価に関する演習を行った。
- ・家庭学習の記録については、家庭学習時間において1日の平均が試験前の126.4分に対し、平常時は66.5分と低迷しており、家庭学習の重要性について意識づけができていない。各教科の連携や分掌間の連携などがより必要である。
- ・進路別ガイダンスや入試形式別のガイダンス等を実施することで進学情報を提供し、学習方法や計画立案を促すなど取り組んでいる。
- ・模擬試験デジタルサービスの活用時間を授業時間内に計画し、実施している。しかし、自宅で利用している生徒はまだごく少数であり、今後も継続して呼びかけていく必要がある。
- ・保護者向けの学年別進路説明会について、1年生88名(参加率44%)、2年生64名(参加率32%)の参加であった。保護者にも、生徒と話し合うために情報の必要性を感じてもらい、もっと参加してほしい取組なので、保護者に参加の呼びかけをする必要がある。
- ・教員対象の研修会について、生徒の状況と学習指導(スタディサポート分析)は定期的に行っている。また、3学年では、学期に1度の進路検討会を実施し学年会内の生徒情報共有化と今後の指導について検討する機会を設けているが、1,2学年での進路検討会は実施できていない。
- ・授業内で進路先の探究、志望理由書の作成や面接指導など実施はできているが、志望理由が深まらず作成に時間のかかる生徒が多い。また、面接指導に関して必要な生徒に事前ガイダンスを実施し、過去問題を各自調べて傾向を把握させるなど、自主的に行動するように仕向けた。今後は1,2年生からの学習集団作りをしていく必要がある。

【今後の改善方策】

- ・10月からの授業観察強化月間において、パフォーマンス課題を取り入れた授業を展開し、hatsunishi prideに基づいた、資質、能力の設定各教科で本校が育てたい資質・能力を3つの柱(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性)で整理し具体化していく。
- ・模擬試験などの振り返りにおいて、進路実現をするために家庭学習が重要なポイントであることを意識付ける。学習の方法について、各教科に分析を依頼し、次回の模擬試験に向けてのアドバイスを行ってもらった。今後も計画的に各教科と連携を図っていく。
- ・早期に目標を設定させるために、1,2年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校、学部研究を深めるLHR、総合的な学習の時間を設定するなど進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。
- ・担任が、生徒ときめ細かい面接指導ができるように引き続き情報提供を進める。また、教員に対してもデジタルサービス活用に関する情報提供やファインシステムの利用など呼びかけ、実際に活用してもらえる工夫を考えていく。

2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。				
基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 時間を守ることを意識させるため、きめ細かい指導体制を構築し、組織的な指導と家庭との連携強化に努める。 (2) 月間目標の作成とキャンペーンを計画的集中的に実施し、意識の喚起を図る。 (3) 定期的な服装頭髪指導と日常の粘り強い指導を定着させる。	A	・生徒指導規程の授業遅刻、学校遅刻の累積指導を継続して取り組むことができた。 ・定期的な服装頭髪指導を実施することができた。	生徒指導部
生徒が主体的に校内美化に取り組む。	(1) 緑化美化委員会を中心として、校内に花を増やす取組を行う。 (2) 「校内美化に関するアンケート」により実態を把握し、掲示板や校内放送により生徒の環境美化意識を高める。	B	・日常の清掃指導を継続して行っている。 ・クリーンキャンペーンで、啓発活動を行った。	

【評価結果の分析】

- ・9月末現在の遅刻者数は、延べ 422 人(1年生 128 人、2年生 179 人、3年生 115 人)で昨年より減少傾向にある。(昨年度9月末現在 470 人) 細かく即時の指導の繰り返しで奏功していると考えられる。
- ・上半期遅刻0キャンペーンを実施できた。

【今後の改善方策】

- ・生徒の身だしなみ等については、定期試験ごとの服装頭髪指導を継続し、遅刻指導については、下半期もキャンペーン等の実施により目標達成につなげていく。
- ・生活習慣の確立という意味で、登下校のルール遵守やマナー指導について指導を徹底する。
- ・11月のクリーンキャンペーンで、アンケートや生徒会と連携して校外清掃を実施し、美化意識を高める。

3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。				
部活動を活性化させる	(1) オリエンテーションや部活動集会を行い、部活動への加入を促す。 (2) 生徒朝礼等での賞状披露や電子掲示板での活躍する部員生徒の姿や、大会等の成績公表を通じて、部活動への興味・関心を喚起する。 (3) 部長会を定期的に開催し、各部活の取組を交流するなどにより主体的な活動を促す。	B	・今年度、1・2年生の部活動加入率は5月の時点で69%と、前年度72%をやや下回る。生徒朝礼での賞状披露や壮行式を通じて、部活動の活躍を紹介している。	生徒会指導部
自主活動を活性化させる	(1) 生徒会総務と生徒会指導部、特別委員会と各分掌との連携を図る。 (2) 部活動との連携を図り、キャンペーンなどを実施してボランティアへの積極的な参加を促す。	B	・委員会活動と部活動との連携により、学校行事やボランティア、自主活動などを進めている。	

【評価結果の分析】

- ・1, 2年生の部活動加入率は5月時点で69%と、今年度の目標値65%を上回る(兼部している生徒を含む)。
- ・生徒会総務委員・代議委員会による朝の挨拶運動や、部活動による校内清掃活動も自主的に行われている。
- ・学校行事について、準備から片付けまで、生徒会総務を中心に各委員会や部活動の協力でスムーズに運営されている。
- ・ボランティア活動では、複数の活動に参加する積極的な生徒も見られるが、全体的に参加者の割合は高いとはいえない。とくに、男子生徒の参加が少ないので、積極的な参加が望まれる。

【今後の改善方策】

- ・生徒会の総務会議を計画的に行うことにより、生徒会の活性化を図り、生徒会一体となって学校行事や自主活動を進めていく。
- ・生徒会総務を中心に、各委員会に働きかけて、挨拶運動などの自主活動を広げていく。
- ・部活動や学校行事の活性化について、広く意見・アイデアを募る。また、成果の発信について工夫する。
- ・引き続き生徒会・部活動に対して、挨拶運動や地域清掃などについて主体的に取り組んでいくよう求めていく。

4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。				
家庭・地域に向けて情報を配信する	(1) 分掌や部活動において、生徒の活動写真と簡単な内容紹介をデータで情報提供してもらう体制を確立し、部活動・生徒主体の活動行事の90%以上をHPへアップする。 (2) 学校評価アンケートの回収率が90%以上となるような様々な機会を通じて発信する。 (3) 姉妹校との連携事業の実施内容等をHP、PTA新聞等で報告する。	B	・各種行事内容のHPへの掲載はできている。 ・部活動については1学期に活動計画を掲載したが、その他のデータが更新されていない部分もある。 ・姉妹校留学体験について、参加生徒の体験談をPTA広報誌に掲載した。	総務部
地域の小学校、中学校との連携、及び本校の教育内容を発信する	(1) 廿日市地区の小中学校からの研究、研修会を案内し、職員への周知を図る。 (2) 出前授業や学校説明会の機会を通じ、近隣の中学校に本校の教育内容を積極的に発信する。	A	・研究、研修会の案内は教務部が行っている。 ・小中学校の通信は掲示板に掲示している。 ・依頼のあった中学校や学習塾への説明会には参加している。	

【評価結果の分析】

- ・各分掌担当の行事について、終了後HPへ掲載することは徹底されてきた。一方で、部活動については練習や大会において一人の顧問で指導に当たっていることも多く、写真を撮ったり、原稿を作成したりする余裕がないことなどがHP掲載回数が増えない要因と考えられる。
- ・オープンスクールへの参加者はここ数年減少傾向にある。今年度は昨年度より13名増加して439名であった。しかし、申込人数は昨年度より15名減少している。

【今後の改善方針】

- ・中学生は高校での部活動について大変興味を持っており、部活動に関する情報提供は生徒募集の観点からも必要であることへの理解を図り、引き続きHP更新用データの提出を依頼する。また、携帯電話やスマートフォンで写したデータを利用したり、写真部や放送部などと連携したりして各部活動への取材なども検討してみる。
- ・近隣小・中学校との連携方法については、教務部なども検討していく。

5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。				
校内の業務改善の推進に努め、教職員の働き方改革を進める	(1) 全教職員で業務改善に係る取組を考え、働き方改革を意識していく。 (2) 各教職員がお互いの業務を支援し合い、成果を可視化していく。	A	各教職員が業績評価で設定した「業務改善」に関する自己評価が3以上の割合が80.4%であった。目標値の70%を超えたが、引き続き、「業務改善」については検討していく必要があると考える。	全 員
教職員が生徒と向き合う時間を確保する	(1) 職員連絡会等を行い、見通しと計画性をもって業務に取り組めるようにする。 (2) 面談週間では、担任だけでなく教科担当も生徒にアドバイスを行う。	B	・定期的に職員連絡会を行っている他、職員朝会の連絡用紙に今週の予定を入れて見通しと計画性をもって業務に取り組むようにしている。	

【評価結果の分析】

- ・各教職員が行う自己評価(業績評価書)の項目に「業務改善」に関する取組を入れ、上半期と下半期にそれぞれ自己評価することにより働き方改革を意識している。このことが、今年度の目標値を上回ったと一つの要因として考えている。
- ・教職員が生徒と向き合う時間の確保については、今年度業務改善のアンケートが実施されていないため客観的な数値を把握できていない。しかし、職員連絡会を月に1度の割合で行っており、見通しと計画性をもって業務に取り組ませることはできている。
- ・面談週間を定期的に設け、担任から生徒にアドバイスを行っている。また、教科担任から生徒へのアドバイスは、面接週間に限らず適宜行っている。

【今後の改善方針】

- ・業務改善については、校務運営会議で議題として取り上げ、継続課題として検討していく。
- ・毎週水曜日の定時退校日は、概ね8割の教職員が定時退校を意識して退校しているが、引き続き、全教職員に定時退校を呼びかけていく。
- ・分掌や学年会で出された意見について、校務運営会議等で取り上げながらできるだけ実行することにより、意見を出しやすい雰囲気を作る。
- ・引き続き、職員連絡会や職員朝礼において予定を示し、見通しと計画性を持たせるように意識付けを行う。

## 令和元年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全日制	本校
----	----	-----	--------------	------	-------	-----	----

経営目標	評価				
	A	B	C	D	評価なし
1 「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。(5項目)	3	2	0	0	0
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。(2項目)	1	1	0	0	0
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にすることを育てる。(2項目)	0	2	0	0	0
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。(2項目)	1	1	0	0	0
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。(2項目)	1	1	0	0	0
計(13項目)	6	7	0	0	0

## 1 評価結果の分析

- 本校の「学びの変革～主体的・協働的で深い学びを追求する授業づくり～」は、計画通り取組を進めている。特に8月の研修において、本校生徒に育てたい資質・能力として「聴く力」「考える力」「行動する力」について話し合い、本校の生徒に育みたい力を具体化し、全教職員で共有することができた。今後は教科ごとに本校が育てたい資質・能力を整理し、具体化する。
- 保護者向けの学年別進路説明会について、1年生88名(参加率44%)、2年生64名(参加率32%)の参加であった。保護者にも、生徒と話し合うために情報の必要性を感じてもらい、もっと参加してほしい取組なので、保護者に参加の呼びかけをする必要がある。
- 授業内で進路先の探究、志望理由書の作成や面接指導など実施はできているが、志望理由が深まらず作成に時間のかかる生徒が多い。また、面接指導に関して必要な生徒に事前ガイダンスを実施し、過去問題を各自調べて傾向を把握させるなど、自主的に行動するように仕向けた。今後は1、2年生からより効果的な学習集制作りをしていく必要がある。
- 9月末現在の遅刻者数は、延べ422人(1年生128人、2年生179人、3年生115人)で昨年より減少傾向にある。(昨年度9月末現在470人) 細かく即時の指導の繰り返しを奏功していると考える。
- 1、2年生の部活動加入率は5月時点で68.5%と、今年度の目標値65%を超えている(兼部している生徒を含む)。
- 学校行事について、準備から片付けまで、生徒会総務を中心に各委員会や部活動の協力でスムーズに運営されている。
- 各分掌担当の行事について、終了後HPへ掲載することはほぼ徹底されてきた。
- 教職員各自が行う自己評価(業績評価書)において、業務改善の推進に係る項目の評価では「目標をほぼ達成している」と回答した教職員の割合が80.4%であり、概ね業務改善を意識して取り組んでいると考える。

## 2 今後の改善方策

- 模擬試験などの振り返りにおいて、進路実現をするために家庭学習が重要なポイントであることを意識付ける。学習の方法について、各教科に分析を依頼し、次回の模擬試験に向けてのアドバイスを行ってもらった。今後も計画的に各教科と連携を図っていく。
- 早期に目標を設定させるために、1、2年生での進路別、分野別ガイダンスの実施や学校、学部研究を深めるLHR、総合的な学習の時間を設定するなど進路研究を深める工夫を考察し、実践できる計画を立案していく。
- 生徒の身だしなみ等については、定期試験ごとの服装頭髪指導を継続し、遅刻指導については、今後キャンペーン等の実施により目標達成につなげていく。
- 部活動や学校行事の活性化について、生徒や職員から広く意見、アイデアを募る。また、成果の発信について工夫する。
- 中学生は高校での部活動について大変興味を持っており、部活動に関する情報提供は生徒募集の観点からも必要であることへの理解を図り、引き続きHP更新用データの提出を依頼する。また、携帯電話やスマートフォンで写したデータを利用したり、写真部や放送部などと連携したりして各部活動への取材なども検討してみる。
- 分掌や学年会で出された意見について、校務運営会議等で取り上げながらできるだけ実行することにより、意見を出しやすい雰囲気を作る。
- 引き続き、職員連絡会や職員朝礼において予定を示し、見通しと計画性を持って業務が行えるようにしていく。

3 学校運営協議会の評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校運営協議会の評価実施後に記入する。)

○概ね適切に取り組んでいると評価を得たので、今後も生徒との信頼関係を構築して教職員が一丸となって取り組む。

○目標値達成に向け、学校運営協議会の意見を踏まえ、各分掌において取り組むべきことを明確にし、組織的に取組を続ける。